

注意点1



オクターブ奏法の押さえ方を確認しよう

ジャズ・ギタリスト、ウェス・モンゴメリーによって、世に広められたオクターブ奏法は、ルート音とそのオクターブ上の音を同時に弾くことで、厚みのあるサウンドを鳴らすことができるテクニック。ウェスはピックを使わずに指でピッキングしていたのだが、現代のロックではピックで弾くことが多い。そのため、余弦のミュートをしっかりと行なう必要がある写真①&②。指を立てて押弦するとルート音とオクターブ音の間の弦のミュートができなくなるので、できるだけ指を寝かせて余弦に触れるようにしよう。また“6 & 4弦”“5 & 3弦”と“4 & 2弦”“3 & 1弦”では、押さえ方が少し異なるので、それぞれの押さえ方をしっかりと覚えることが大切だ。速いポジション移動時でも、押弦フォームが崩れてしまわないように注意しよう。



図1-1 このように指を立てて押弦すると、不要弦のミュートができず、ノイズが鳴ってしまうので注意しよう。



図1-2 中指&薬指も寝かせて、すべての不要弦をミュートしよう。これなら激しいピッキングにも対応できる。

注意点2



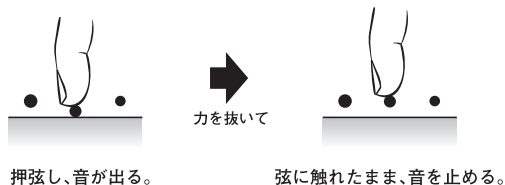
16分ダウンの空振り時の軌道とミュートに注意!

このフレーズでは、16分のリズムを感じながら、基本的に最後までオルタネイト・ピッキングをキープさせることが大切だ。特に16分休符のダウン空振り後に入る16分ウラのアップ・ピッキングは、現代のラウド・ミュージックにも通じるグルーヴィなノリなので、しっかりと弾けるようになろう(図1-a)。また、16分休符のダウン空振り時には、ミュートにも注意してもらいたい。このミュートは、押弦フォームを崩すことなく、少し力を抜いて指を浮かせる感覚で行なう(図1-b)。この16分休符のダウン空振り時の右手と左手のコンビネーションは、何度も練習し、必ずできるようになること。3小節目には、スライド、ブリッジを用いた単音弾きが登場するが、リズムに注意しながら、しっかりと1音1音弾こう。

図1-a ダウン空振り後のアップ・ピッキング



図1-b ダウン空振り時のミュート



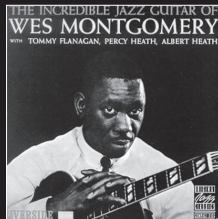
～コラム46～

地獄の戯れ言

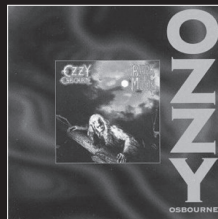
ここでは、オクターブ奏法の名プレイヤーが聴ける作品を紹介しよう。まずはオクターブ奏法の元祖と言えるウェス・モンゴメリーの『インクレディブル・ジャズ・ギター』。彼が生み出す温かいサウンドは、多くのプレイヤーを魅了した。続いてオジー・オズボーンの『月に吠える』。タイトル曲では、ジェイク・E・リーによる素早い動きのオクターブ奏法を聴くことができる。最後は現在のラウド系バンドからリンキン・パークの『メテオラ』をピックアップしよう。バックアップ時でもメロディアスにオクターブ奏法を弾き、楽曲とサウンドに厚みを与えている。

プロに学べ!

オクターブ奏法名盤紹介



ウェス・モンゴメリー
『インクレディブル・ジャズ・ギター』



オジー・オズボーン
『月に吠える』



リンキン・パーク
『メテオラ』